

思 いや り

「思いやり」とは、どんなものが説明できるでしょうか。私は、「想像力」ではないかと思います。それは、相手や他人の立場を思い描く力⇒想像力だということです。例えば、何かに困っている人がいたら、「わたしがその人だったら」と自分のこととして考える力です。そして、自分に何ができるかを考え、行動する（行為として実行する）力だと思います。

その「思いやり」は、生まれながらに身に付いているものでしょうか。おそらく、元からあるものではなく、学びながら「力として」身に付けていくもののはずです。学校というのは、様々な学びを通して「思いやり」を身に付けることができる場所です。次の詩を読みながら、皆さんと一緒に感じ、学んでみたいと思います。



「行為の意味」 宮澤章二

…あなたの〈こころ〉はどんな形ですか
と ひとに聞かれても答えようがない
自分にも他人にも〈こころ〉は見えない
けれど ほんとうに見えないのであろうか
確かに〈こころ〉はだれにも見えない
けれど〈こころづかい〉は見えるのだ
それは 人に対する積極的な行為だから
同じように胸の中の〈思い〉は見えない
けれど〈思いやり〉はだれにでも見える
それも人に対する積極的な行為だから
あたたかい 心 があたたかい行為になり
やさしい 思い がやさしい行為になるとき
〈心〉も〈思い〉も 初めて美しく生きる
…それは 人が人として生きることだ

※出典:「行為の意味 青春前期のきみたちに」 ごま書房新社

これは、東日本大震災の直後に毎日流された公共広告機構（ＡＣ）のＣＭで有名になった宮澤章二さんの詩の一節です。

この詩の中で、宮澤さんは、人の心の中は見えない、どんな思いがあったとしても行為として表わさない限り人には伝わらない、自分の思いを積極的に行為という形にして表した時に意味あるものになってくると言っています。

しかしながら、自分の思いを行為として表すことは、時に恥ずかしく、勇気のいることです。それでも行動に表さなければ伝わりません。

例えば、「あいさつ」、どんなに心の中で「おはようございます」と言っても声に出して表さなければ相手には伝わりません。心の中での思いと行為が一致した時、本当の「思いやり」となるのではないのでしょうか。心に思ったことを積極的に表す勇気をもちたいものです。



校長 加藤 勉